

津山藩医・宇田川玄真は若いころ、少しの間ですが杉田玄白の養子になっていました。そのいきさつは『蘭学事始』に詳しく記されています。

それによると、玄白の屋敷に移り住んだ玄真は、蘭書（オランダ語の本）が何十冊もある恵まれた環境で勉学に励み、一段と学力を伸ばしたといえます。玄白は、そんな玄真の様子をとっても喜んでいました。

ところが、安定した生活を得ると心に緩みが生まれたのでしょうか、次第に放蕩を重ねるようになってしまいます。たびたび注意されても改まらず、とうとう玄白は「惜しむべき才子」と思いつつも、離縁を決意したのでした。

杉田家を追われた玄真は、たちまち生活に困ってしまいます。それでも蘭学の勉強をあきらめることはできませんでした。友人たちはそんな玄真を心配し、陰ながら援助をしたり、蘭書の翻訳の仕事を手伝ったりして助けました。その1人が鳥取藩医の稲村三伯です。

当時、三伯は日本で初めてのオランダ語辞典を作ろうとしていましたが、何万語もの単語を翻訳する作業は大変なものでした。そこで、語学力に優れた玄真に作業を手伝わせました。玄真の助力を得て、寛政8年（1796）、ついに初の蘭日辞典『ハルマ和解』は完成します。

その功績は玄真への信頼を取り戻すきっかけになりました。完成の翌年、宇田川玄随が42歳の若さで亡くなります。玄随には跡継ぎがいなかったため、弟子たちは誰を養子に迎えるか相談しました。議論は随分ともめたようですが『ハルマ和解』

# 筆 漫 覧 博 学 洋

～玄真と杉田玄白～

編さんでの功績や抜きん出た才能が認められ、玄真が推挙されたのです。寛政10年（1798）2月、ようやく藩の許しを得た玄真は宇田川家を相続しました。

それからの玄真はますます研究に励み、多くの業績を上げました。中でも特に有名な医学書『医範提綱』を刊行したところ、玄真は過去の行いを謝るために、再び杉田家の門を叩きます。心を入れ替えて励む姿と、何より積み重ねてきた実績を認めたのでしよう。玄白は玄真を許し、かつて父子だったころのように交流し始めたのでした。



▲『蘭学事始』(復刻)

※透かしの家紋は右が箕作家、左が宇田川家のものである。

## 9月中のひとの動き

人口	109,794人(前月比△1)		
男	52,351人(同+15)		
女	57,443人(同△16)		
世帯	43,834世帯(同+35)		
転入	232人	転出	236人
出生	94人	死亡	91人

(10月1日現在)

広報つやまは、環境保護のため再生紙と大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください



## つぶ・や・き 編集室

今月の特集は「教育」。広くて深いテーマから「学力向上」にしようとお知らせしましたが「学力」とは一体何一つにして何と深いことか。自分の「知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力」の無さを痛感しながらの編集でした。(和)

「つやま市民スポーツ祭」には子どもたちの笑顔と一生懸命さがあふれていました。我が身を省みると、子どものころに持っていた大切なものが失われているかも…。何事にも真剣に一生懸命取り組めるようになりたいですね。(S)

津山の秋の味覚を代表する自然薯。「とろろめし」など自然薯料理を食べることのできる祭りが12月に市内2カ所で開催されます。どっちへ行こうかと考えていたら、無性に食べたくなりました。こうなったら両方行くぞ！(2)



11月号  
平成20年  
2008  
649号

編集・発行 (毎月10日発行)  
津山市総合企画部市長公室 (市役所3階)  
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地  
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152  
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。  
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>

